

2014 年初めから続くタイの少雨について

- ・ 2014 年初め以降、タイでは積算降水量が平年より少ない状態が続き、チャオプラヤ川の流域ではダム貯水量が大幅に低下して断水などの影響が広がっています。
- ・ 今後、夏から秋にかけて、インドシナ半島付近では、積算降水量が少ない状況の解消には至らない見通しです。

1. 天候の経過と影響

2014 年初め以降、チャオプラヤ川流域では降水量が平年より少ない状態が続きダムの貯水量が少なくなっており、ダムからの取水ができなくなり断水となった地域では給水活動が始まっているほか、タイ政府からは節水や農作物の作付け延期の呼びかけがなされています（タイ水道局）。

2014 年 1 月からの 18 か月間降水量は、タイのほとんどの観測地点で平年を下回っています（図 1 左）。特に、タイ北西部のチャオプラヤ川上流やタイ北東部のラオスとの国境付近では、季節的に降水量の多くなる 5 月以降も降水量が少ない状態が続いており、2015 年 5 月から 6 月の 2 か月間降水量が平年の 40% 以下の地点も見られます（図 1 右）。

チャオプラヤ川流域における 2014 年の年間積算降水量は 2000 年以降で最小を記録し、また今年 2015 年は 7 月 16 日時点で、2014 年を下回る推移となっています（図 2）。

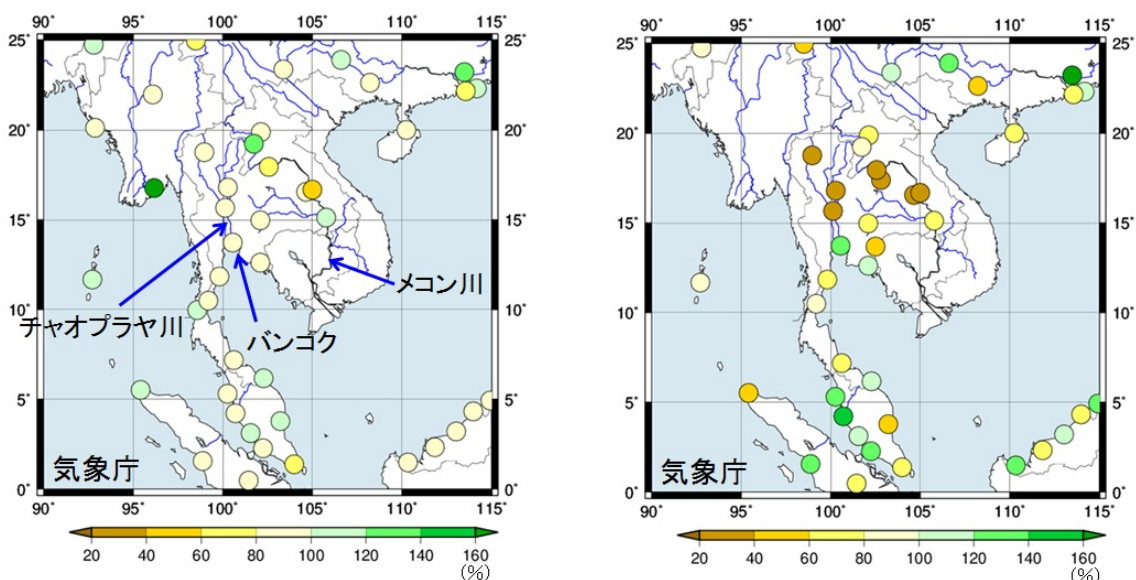


図 1 2014 年 1 月～2015 年 6 月の 18 か月降水量平年比（左）と 2015 年 5 月～2015 年 6 月の 2 か月降水量平年比（右）

各国から通報されたデータを用いて気象庁で作成。平年値は 1981 年～2010 年の平均。

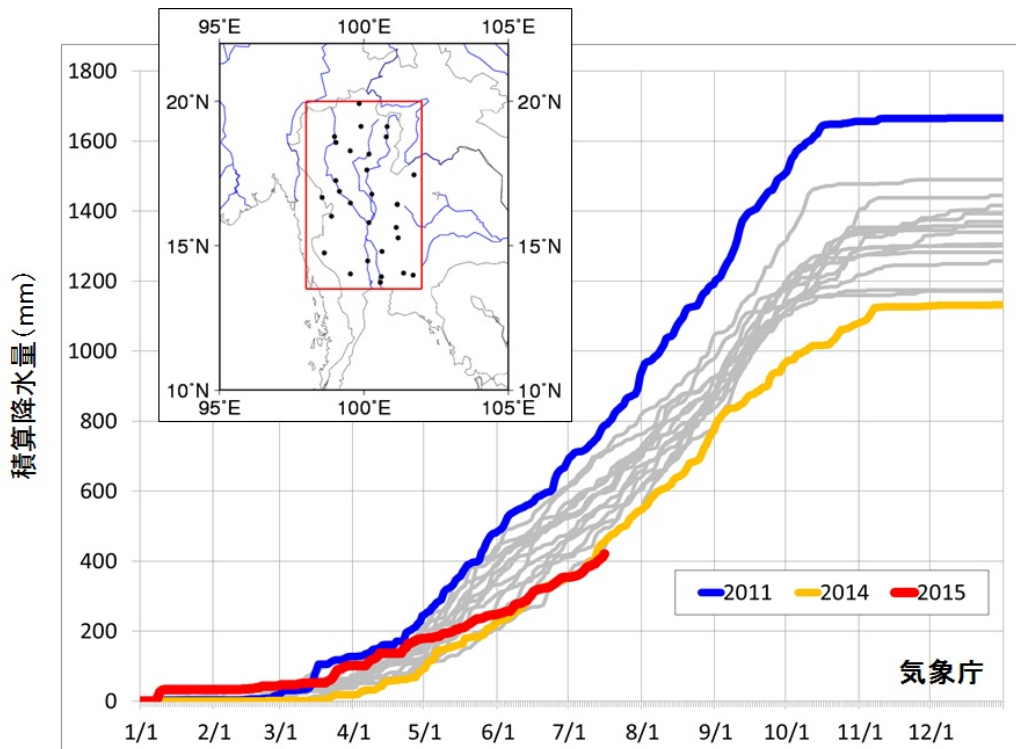


図2 タイのチャオプラヤ川流域の平均積算降水量（1月1日～12月31日）

タイのチャオプラヤ川流域の29観測地点（地図の黒丸）で平均した、2000年以降の各年の1月1日からの積算降水量（2015年は7月16日まで）。橙色が2014年、赤色が2015年、青色が大規模な洪水のあった2011年、灰色が2000年以降のその他の年を示す。

2. 大気の流れの特徴

例年、インドシナ半島付近では、5月初め頃のモンスーン¹の開始に伴い、インド洋から湿った南西風が流れ込むようになり、おおむね10月にかけて、積乱雲が盛んに発生して降水量が多くなります。しかし、2015年のモンスーン期は、南アジア～ベンガル湾付近で平年よりも低気圧が弱いことに伴って、インドシナ半島に吹き込む南西風が弱く（図3）タイでは降水量が少ない状態で推移しています。また、2014年5月から10月にかけての6か月間で平均した大気の流れにも同様の特徴が見られ、タイでは平年より降水量が少なくなりました。

¹大陸と海洋の地理的分布によって生じる大規模な季節風のこと。夏は陸地が暖まって地上付近で低気圧になるため、相対的に気圧が高い海上から陸に向かって風が吹き込む。インドシナ半島付近では、夏のモンスーンが始まると、インド洋から流入する水蒸気により活発な降水を生じる。

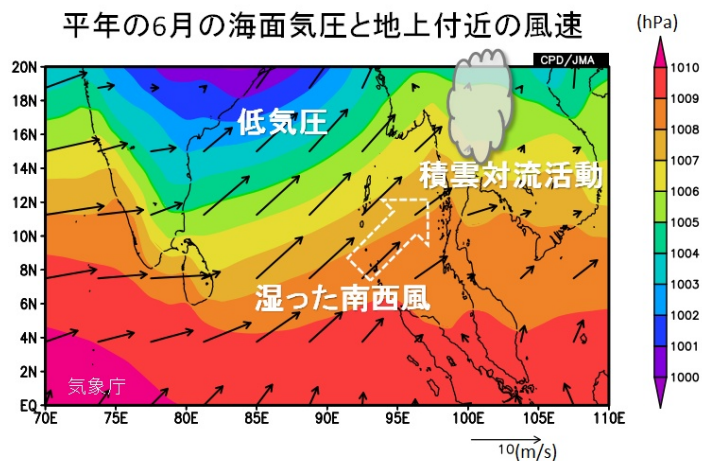
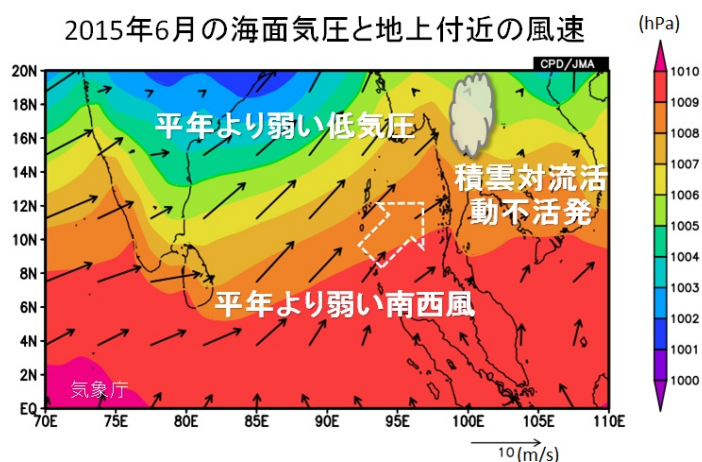


図3 インドシナ半島周辺における6月の大気の流れの特徴を示す模式図
陰影は海面気圧、矢印は地上付近の風を表している。いずれも6月の平均で、上図は平年、下図は2015年。2015年6月はインド洋から吹き込む南西風が弱く、タイ付近では対流活動が平年より不活発となった。2014年5月～10月にも、同様の特徴が見られた。



3. 今後の見通し

夏から秋にかけてのインドシナ半島付近では、平年よりモンスーンが弱い状態で推移する見通しで、数十日周期の季節内変動に伴って降水量が多くなる時期もあると考えられるものの、2014年初めからの積算降水量が少ない状況の解消には至らない見込みです。

気象庁ホームページ「世界の異常気象」

http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/extreme_world/index.html

において、最近の世界の異常気象や気象災害の状況を週、月、季節別にまとめていますので、あわせてご利用ください。

本件に関する問い合わせ先：

気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 異常気象情報センター

03-3212-8341 内線 3158